

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年7月31日

【四半期会計期間】 第63期第2四半期（自 2021年7月1日 至 2021年9月30日）

【会社名】 株式会社ヤマウラ

【英訳名】 YAMAURA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山 浦 正 貴

【本店の所在の場所】 長野県駒ヶ根市北町22番1号

【電話番号】 (0265)81 5555(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 中 島 光 孝

【最寄りの連絡場所】 長野県駒ヶ根市北町22番1号

【電話番号】 (0265)81 6070(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 中 島 光 孝

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

2023年5月9日、会計監査人より当社連結子会社の預金残高に係る帳簿残高と銀行残高の相違の指摘を受け社内調査を進めてまいりました結果、当社従業員が当社連結子会社で不適切支出を行っていたことが判明いたしました。不適切支出に係る事実関係解明のため、会社と独立した立場から公正かつ専門的に判断をするため外部専門家で構成される第三者委員会を設置して客観的かつ専門的な調査を社内調査と並行して進めてまいりました。

その結果、2023年7月27日に第三者委員会から調査報告書（中間報告書）を受領いたしました。当該報告を踏まえ、当社連結子会社における不適切支出について、四半期連結財務諸表において、未収入金及び開発事業等支出金などから長期未収入金へ組換え計上を行い、長期未収入金の回収可能性を検討して貸倒引当金を計上いたしました。

当該訂正により、当社が2021年11月12日に提出いたしました第63期第2四半期（自 2021年7月1日 至 2021年9月30日）に係る四半期報告書の記載事項の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、誠栄有限責任監査法人の四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

四半期レビュー報告書

3 【訂正箇所】

訂正箇所は___を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第62期 第2四半期連結 累計期間	第63期 第2四半期連結 累計期間	第62期
会計期間	自 2020年 4月1日 至 2020年 9月30日	自 2021年 4月1日 至 2021年 9月30日	自 2020年 4月1日 至 2021年 3月31日
売上高 (千円)	10,319,307	11,284,463	24,829,451
経常利益 (千円)	722,927	1,016,258	983,812
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	518,914	639,468	579,767
四半期包括利益又は 包括利益 (千円)	849,654	650,971	866,085
純資産額 (千円)	15,844,624	16,463,098	15,859,444
総資産額 (千円)	21,645,297	23,626,991	23,054,116
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	27.61	33.79	30.70
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	73.2	69.7	68.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,395,112	1,143,247	5,340
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	74,578	35,750	218,353
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,446,602	47,318	103,987
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,927,998	2,994,539	1,934,360

回次	第62期 第2四半期連結 会計期間	第63期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自 2020年 7月1日 至 2020年 9月30日	自 2021年 7月1日 至 2021年 9月30日
1株当たり四半期純利益 金額 (円)	28.89	20.66

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 2 第62期第2四半期連結累計期間の1株当たり四半期(当期)純利益の算定上の基礎となる自己株式数には、野村信託銀行(株)(ヤマウラ従業員持株会専用信託口)が所有する当社株式数を含めております。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、海外ならびに国内においても、昨年初に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的広がりにより、現在、感染者数2億47百万人超・死者500万人超の状況であり、2極化とも言われるワクチン接種率の増加、欧州地域での再拡大もありつつ、日本では感染者数が減少しています。世界的には、中央銀行による金融緩和、米国での多額の財政政策実施、各国政府による雇用助成策等が実施され、沈静化の動きを受けた景気回復気運が高まり、原油価格水準は7年振りに高値水準を記録しています。しかしながら、新規感染者数は、最大感染国の米国においては、1日の感染者数も2万人から10万人の振れ幅で増加している状況、世界的な製造部品の供給制約問題等もあり、景気回復気運はあるものの、先行き不透明な経済が長引くものと推測される状況です。

一方、国内経済についても、新型コロナウイルス感染症拡大・縮小・再拡大が繰り返されながら、4度目となった緊急事態宣言が漸く9月30日に解除されました。人流抑制が図られていったことに加え、ワクチン接種率については、全人口の2回目接種率は67%程度、1回目接種率は71%程度の状況です。沈静化されつつあるも、ワクチン経口薬の国内承認も待ち望まれながら、冬期を迎えて第6波の懸念も払拭されていません。10月1日公表された日銀短観の先行き景況感では、大企業製造業のDI(業況判断指数、「良い」「悪い」)はプラス14と現状より4ポイント悪化が見込まれております。要因として、自動車産業を中心とした半導体不足、内需型産業でも物流停滞、人手不足が背景とされております。一方、大企業非製造業のDIは、現状プラス2、先行きプラス3と各1ポイント改善しております。緊急事態宣言解除に伴い飲食業等での改善期待が背景です。しかしながら、新型コロナウイルス感染症再拡大懸念、供給制約要因や原材料価格の高騰もあることから、景気回復の先行き不透明感は否めません。

当社グループが中核事業としている建設業界におきましては、日銀松本支店の同日発表された金融経済動向では、「長野県経済は、一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しの動きが続いている。最終需要の動向をみると、設備投資は堅調に推移している。また、個人消費はサービス消費に弱い動きがみられるものの、持ち直しつつある。住宅投資は持ち直し、公共投資は増加が一服している。この間、生産は一部に供給制約の影響を受けつつも、増加を続けている。雇用・所得は持ち直しつつある。企業の業況感は、製造業を中心に改善している。」とされています。当地区においては、新型コロナウイルス感染症を含めた経済悪化を起因とする設備投資意欲の減衰感懸念もある中で、一部原材料費上昇もあり、工事価格や工事期間等、厳しい受注環境が引き続いております。

このような環境のもと、利益面においては、販売費及び一般管理費の一層の削減に努めながら、BIM、マシンコントロール、マシンガイダンス、VR、AR、3Dレーザースキャナーを始めとするICT化を駆使しつつ、IEを主としたKAIZEN活動の全社展開や仮設資材等の軽量化・省力化による工数削減等にての原価削減に引き続き積極的に取り組んだ結果、受注高、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益についても、厳しい環境ですが、業況は順調に推移しております。

このような環境下において、当社グループの当第2四半期連結累計期間における業績は、受注高(開発事業等含む)136億31百万円(前年同四半期比11.6%増)、売上高は112億84百万円(前年同四半期比9.4%増)、営業利益11億75百万円(前年同四半期比55.6%増)、経常利益10億16百万円(前年同四半期比40.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億39百万円(前年同四半期比23.2%増)となりました。

事業部の種類別セグメントの実績は次のとおりです。

(建設事業)

建設事業につきましては、医療介護・マンション・流通・食品関連・水力発電設備及び道路・河川建設工事など公共工事等の受注に注力し、お客様ニーズに対応するべく開発したハイグレードな自由設計住宅ファミレを始めとする住宅等の受注にも注力いたしました。加えて、エンジニアリング事業との協働にて長年取り組んでいる水力発電事業も寄与しております。

その結果、受注高113億22百万円(前年同四半期比12.7%増)、完成工事高94億78百万円(前年同四半期比8.3%増)、営業利益は10億34百万円(前年同四半期比61.2%増)となりました。

(エンジニアリング事業)

エンジニアリング事業につきましては、創業時よりのモノづくりの系譜を背景とした事業ですが、設備投資も実施しながら、ダム関連工事、合成床版、大型精密製缶工事、水力発電設備工事等に注力しました。

その結果、受注高15億28百万円(前年同四半期比8.7%増)、完成工事高10億25百万円(前年同四半期比26.6%増)、営業利益は97百万円(前年同四半期比47.8%増)となりました。

(開発事業等)

開発事業等につきましては、永年培ったノウハウを基に、首都圏等でのマンション分譲事業等に加え、再生エネルギー事業等に注力しました。

その結果、開発事業等売上高7億95百万円(前年同四半期比2.5%増)、営業利益60百万円(前年同四半期比3.4%減)となりました。

なお、上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ10億60百万円増加し、当四半期連結会計年度末には29億94百万円になりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は11億43百万円となりました。主な要因は、その他たな卸資産の増加6億66百万円、未成工事支出金の増加2億63百万円などによるキャッシュ・フローの減少の一方、売上債権の減少12億59百万円、契約負債の増加4億29百万円などによるキャッシュ・フローの増加によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は35百万円となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出32百万円、無形固定資産の取得による支出2百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は47百万円となりました。主な要因は、短期借入による収入17億円の方、短期借入金の返済による支出17億円、配当金の支払による支出47百万円によるものです。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略について、重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は6百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	82,000,000
計	82,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,103,514	21,103,514	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は、100株であり ます。
計	21,103,514	21,103,514		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日		21,103,514		2,888,492		1,995,602

(5) 【大株主の状況】

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	2021年9月30日現在
			発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
(株)信州エンタープライズ	長野県駒ヶ根市北町20番6号	3,641	19.24
ヤマウラ従業員持株会	長野県駒ヶ根市北町22番1号	1,698	8.97
日本スタートラスト信託銀行 (株)(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	916	4.84
(株)八十二銀行	長野県長野市大字中御所字岡田178番地	668	3.53
(株)長野銀行	長野県松本市渚2丁目9番38号	444	2.34
綿半ホールディングス(株)	東京都新宿区四谷1丁目4番地	429	2.26
山 浦 速 夫	長野県駒ヶ根市	359	1.89
山 浦 康 民	長野県駒ヶ根市	358	1.89
(株)日本カストディ銀行 (信託口4)	東京都中央区晴海1丁目8-12	271	1.43
アルプス中央信用金庫	長野県伊那市大字伊那3438番地1	209	1.10
計		8,995	47.53

(注) 上記のほか当社所有の自己株式2,176千株あります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,176,100		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,922,900	189,229	同上
単元未満株式	普通株式 4,514		同上
発行済株式総数	21,103,514		
総株主の議決権		189,229	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄には証券保管振替機構名義の株式が4,600株(議決権46個)含まれておりません。

2 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式が93株含まれております。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヤマウラ	長野県駒ヶ根市北町 22 1	2,176,100		2,176,100	10.31
計		2,176,100		2,176,100	10.31

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、誠栄監査法人による四半期レビューを受けております。

また、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、誠栄有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、誠栄監査法人は、監査法人の種類の変更により、2023年4月1日付で誠栄有限責任監査法人となっております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	1,944,499	3,004,678
受取手形・完成工事未収入金等	5,980,448	-
受取手形・完成工事未収入金等及び契約資産	-	4,780,264
電子記録債権	589,782	530,317
販売用不動産	3,680,097	3,513,120
未成工事支出金	1,124,846	1,388,558
開発事業等支出金	1,628,971	2,295,156
材料貯蔵品	21,959	22,248
未収入金	2,080,950	2,210,932
その他	81,077	96,287
流動資産合計	17,132,632	17,841,564
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	1,583,926	1,538,365
土地	1,256,344	1,256,344
その他（純額）	498,681	446,828
有形固定資産合計	3,338,952	3,241,538
無形固定資産	395,199	330,080
投資その他の資産		
その他	2,758,047	2,999,963
貸倒引当金	570,715	786,155
投資その他の資産合計	2,187,332	2,213,808
固定資産合計	5,921,483	5,785,427
資産合計	23,054,116	23,626,991
負債の部		
流動負債		
工事未払金等	1,645,556	1,759,980
短期借入金	1,700,000	1,700,000
未払法人税等	527,834	420,255
未成工事受入金	1,447,650	-
契約負債	-	1,876,839
賞与引当金	349,000	213,000
完成工事補償引当金	352,729	341,295
工事損失引当金	38,204	102,297
株主優待引当金	147,665	156,944
その他	815,647	423,100
流動負債合計	7,024,287	6,993,713
固定負債		
長期末払金	87,347	87,347
資産除去債務	4,591	4,591
その他	78,446	78,241
固定負債合計	170,384	170,180
負債合計	7,194,671	7,163,893

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,888,492	2,888,492
資本剰余金	1,995,602	1,995,602
利益剰余金	11,258,811	11,850,961
自己株式	831,014	831,014
株主資本合計	15,311,891	15,904,041
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	550,635	565,249
退職給付に係る調整累計額	3,082	6,193
その他の包括利益累計額合計	547,553	559,056
純資産合計	15,859,444	16,463,098
負債純資産合計	23,054,116	23,626,991

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高		
完成工事高	9,558,792	10,504,312
開発事業等売上高	760,514	780,150
売上高合計	10,319,307	11,284,463
売上原価		
完成工事原価	7,707,611	8,196,946
開発事業等売上原価	605,938	632,940
売上原価合計	8,313,550	8,829,886
売上総利益		
完成工事総利益	1,851,181	2,307,365
開発事業等総利益	154,576	147,210
売上総利益合計	2,005,757	2,454,576
販売費及び一般管理費	¹ 1,250,273	¹ 1,279,103
営業利益	755,484	1,175,472
営業外収益		
受取利息	45,024	38,586
受取配当金	16,393	19,481
受取手数料	7,007	918
受取保険金	-	10,057
その他	4,936	1,444
営業外収益合計	73,362	70,488
営業外費用		
支払利息	10,526	15,202
貸倒引当金繰入額	95,392	214,500
その他	0	0
営業外費用合計	105,919	229,703
経常利益	722,927	1,016,258
特別利益		
資産除去債務履行差額	109,346	-
特別利益合計	109,346	-
特別損失		
固定資産売却損	88	-
固定資産除却損	1,162	-
特別損失合計	1,250	-
税金等調整前四半期純利益	831,023	1,016,258
法人税、住民税及び事業税	312,109	376,790
四半期純利益	518,914	639,468
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	518,914	639,468

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
四半期純利益	518,914	639,468
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	330,044	14,614
退職給付に係る調整額	694	3,110
その他の包括利益合計	330,739	11,503
四半期包括利益	849,654	650,971
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	849,654	650,971
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	831,023	1,016,258
減価償却費	194,500	189,666
引当金の増減額(は減少)	50,528	141,378
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	1,109	261
受取利息及び受取配当金	61,418	58,068
支払利息	10,526	15,202
固定資産売却損益(は益)	88	-
固定資産除却損	1,162	-
資産除去債務履行差額	109,346	-
売上債権の増減額(は増加)	255,922	1,259,650
未成工事支出金の増減額(は増加)	166,846	263,712
販売用不動産の増減額(は増加)	172,096	166,977
その他の棚卸資産の増減額(は増加)	560,012	666,474
仕入債務の増減額(は減少)	75,702	114,424
未成工事受入金の増減額(は減少)	1,188,821	-
契約負債の増減額(は減少)	-	429,189
未払消費税等の増減額(は減少)	59,825	178,972
営業貸付金の増減額(は増加)	49,747	213
未収入金の増減額(は増加)	173,976	352,481
その他	211,109	253,421
小計	2,380,171	1,559,568
利息及び配当金の受取額	61,418	58,068
利息の支払額	10,526	15,202
法人税等の支払額	35,951	459,187
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,395,112	1,143,247
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	36,521	32,052
有形固定資産の売却による収入	11	-
無形固定資産の取得による支出	37,181	2,791
投資有価証券の取得による支出	887	907
投資活動によるキャッシュ・フロー	74,578	35,750
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	1,700,000
短期借入金の返済による支出	1,400,000	1,700,000
長期借入金の返済による支出	134,230	-
配当金の支払額	47,318	47,318
自己株式の売却による収入	134,946	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,446,602	47,318
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	873,932	1,060,179
現金及び現金同等物の期首残高	2,054,066	1,934,360
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 2,927,998	¹ 2,994,539

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1 税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(会計方針の変更等)

収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は次のとおりです。

工事契約に係る収益認識

当社は、従来は請負工事契約に関して、進捗部分について成果の確実性が認められる工事には工事進行基準を、それ以外の工事には工事完成基準を適用しておりました。これを第1四半期連結会計期間より、一定の期間にわたり充足される履行義務は、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識し、一時点で充足される履行義務は、工事完了時に収益を認識することとしております。なお、履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、見積総原価に対する発生原価の割合(インプット法)で算出しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高へ与える影響はありません。

また、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響もありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形・完成工事未収入金等」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形・完成工事未収入金等及び契約資産」に含めて表示しております。また、「流動負債」に表示していた「未成工事受入金」は、「契約負債」として表示しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により取替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積りにおいて、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載いたしました仮定に重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
従業員給料手当	293,026千円	341,364千円
賞与引当金繰入額	85,541千円	88,726千円

- 2 当社グループの売上高は、通常の営業形態として、第2四半期連結会計期間と第4四半期連結会計期間に完成する工事の割合が大きいため、各四半期連結会計期間の業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	
現金及び預金	2,938,137千円	現金及び預金	3,004,678千円
預入期間が3か月を超える定期預金	10,139千円	預入期間が3か月を超える定期預金	10,139千円
現金及び現金同等物	<u>2,927,998千円</u>	現金及び現金同等物	<u>2,994,539千円</u>

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	47,318	2.5	2020年3月31日	2020年6月29日	利益剰余金

(注) 2020年6月26日の定時株主総会の決議による配当金の総額には、従持信託が所有する当社株式に対する配当金568千円が含まれております。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月13日 取締役会	普通株式	47,318	2.5	2020年9月30日	2020年12月15日	利益剰余金

(注) 2020年11月13日の取締役会の決議による配当金の総額には、従持信託が所有する当社株式に対する配当金127千円が含まれております。

2 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月25日 定時株主総会	普通株式	47,318	2.5	2021年3月31日	2021年6月28日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月12日 取締役会	普通株式	47,318	2.5	2021年9月30日	2021年12月6日	利益剰余金

2 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	建設事業	エンジニア リング事業	開発事業等	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,749,062	809,730	760,514	10,319,307		10,319,307
セグメント間の内部 売上高又は振替高			15,749	15,749	15,749	
計	8,749,062	809,730	776,264	10,335,057	15,749	10,319,307
セグメント利益	642,027	66,239	63,134	771,401	15,916	755,484

(注) 1. セグメント利益の調整額 15,916千円には、セグメント間取引消去5,892千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 21,809千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書上の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	建設事業	エンジニア リング事業	開発事業等	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,478,974	1,025,337	780,150	11,284,463		11,284,463
セグメント間の内部 売上高又は振替高			15,749	15,749	15,749	
計	9,478,974	1,025,337	795,900	11,300,212	15,749	11,284,463
セグメント利益	1,034,699	97,934	60,975	1,193,609	18,136	1,175,472

(注) 1. セグメント利益の調整額 18,136千円には、セグメント間取引消去5,890千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 24,027千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書上の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

当社グループの収益認識の時期別に分解した内容は次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			
	建設事業	エンジニアリング事業	開発事業等	計
売上高				
一定の期間にわたり移転される財・サービス	9,143,702	1,019,984		10,163,686
一時点で移転される財・サービス	335,272	5,353	744,062	1,084,688
顧客との契約から生じる収益	9,478,974	1,025,337	744,062	11,248,374
その他の収益			51,838	51,838
連結会社間の売上高			15,749	15,749
外部顧客への売上高	9,478,974	1,025,337	780,150	11,284,463

(注) その他の収益は、不動産賃貸収入であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益	27.61円	33.79円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	518,914	639,468
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	518,914	639,468
普通株式の期中平均株式数(株)	18,796,346	18,927,321

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship®)によって設定される従持信託が所有する当社株式については、四半期連結財務諸表において自己株式として認識しているため、前第2四半期連結累計期間の「普通株式の期中平均株式数」は、当該株式数を控除して算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第63期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)中間配当については、2021年11月12日開催の取締役会において、2021年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	47,318千円
1株当たりの金額	2円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2021年12月6日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年7月31日

株式会社ヤマウラ
取締役会 御中

誠栄有限責任監査法人

愛知県名古屋市

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古 川 利 成

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 林 真 二

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヤマウラの2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヤマウラ及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して2021年11月12日に四半期レビュー報告書を提出しているが、当該訂正に伴い、訂正後の四半期連結財務諸表に対して本四半期レビュー報告書を提出する。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。